

優秀賞

伏屋 秀一郎(ふせや しゅういちろう) 上柚木小 3年生

作品名:「オオカミ王ロボ」を読んで

図書:シートン動物記1オオカミ王ロボ

ぼくは二年生の遠足で動物園に行ったとき、オオカミを見てカッコいいなと思い、すきになりました。オオカミのことをもっと知りたいと思ったので、オオカミ王ロボを読んでみました。

オオカミのロボは、牧場の牛やヒツジをくいこして、牧場の人たちをこまらせていました。たとえば、ロボは一ばんに二百五十頭ものヒツジをころしました。しかも面白半分でころしたというのは、ひどいと思いました。本の題名がオオカミ王と書いてあったので、王とは悪の王のことかと思いました。

シートンは、牧場をしている友達から手紙をもらって、ロボたいじを引きうけました。ですが、ロボがかしこくて強いので、さすがのシートンもつかまえるのに苦労しました。色々ためしても、ロボだけをねらってはつかまえることができませんでした。そこで、ロボのおくさんのブランカをつかまえようと考えました。ブランカはロボよりも弱いからです。そうしてシートンはまずブランカをつかまえることができました。ロボはブランカを心配して気がくるいそうになり、とうとうブランカをおとりにしたわなにかかってしまいました。ついにシートンは牧場の人たちを助けるという役目をはたすことができたのです。

けれど、よく考えてみれば、かしこくて強いロボをつかまえられなかったからといって、先に弱いブランカをつかまえるのはひきょうなのじゃないかと思いました。

反対に、いくら牧場をあらしたロボでも、ブランカを思って必死に助けようとしたことはすばらしいと思います。シートンはロボをつかまえてから肉や水をやりましたが、ロボは見向きもしませんでした。そしてロボは死んでしまいました。力をうばわれ、自由をうばわれ、おくさんと死に別れたロボは自ら命を絶ったのでした。最後までオオカミの王様はえさを口にせず、王様らしい生がいを閉じました。やはり、ロボはすばらしい王様でした。

最初は、ロボが悪者だと思ったのですが、ブランカを思う気持ちを持っていて、

王者らしい最後をとげたすがたはかっこいいと思いました。シートンは、牧場の人たちを助けてすごいと思いましたが、ロボをつかまえるために先にブランカをつかまえたのはずるいと思いました。だからぼくは、どちらが正しくてどちらがまちがっているのか、分からなくなってしまいました。シートンたち人間から考えると、ロボたち動物は悪者に思えてしまうけれど、動物から考えると、人間が悪者に思えてしまうのではないのでしょうか。

ぼくはしょうらい、動物と人間が親しんで、いっしょに生きていく方法を、動物の立場にたって考えられる人になりたいです。そのために、もっと動物にくわしくなろうと思います。